

第 5 回大和郡山市学校規模適正化審議会会議録

1, 開催日時・場所

(日 時) 令和元年5月28日(火) 午後2時00分～
 (場 所) 市議会第一委員会

2, 出席者

(委 員) 恒岡委員、石川委員、植村委員、西村委員、勝川委員
 高見澤委員、吉村委員、西尾委員
 (大和郡山市教育委員会事務局) 谷垣教育長、八木部長、澁谷課長
 (教育総務課) 奥村次長、谷口補佐

3, 資 料 別紙参照

開会	会長:開会宣言
配布資料など について	事務局:資料説明
新任委員の紹介	新任委員自己紹介3名
市民アンケート 調査結果に ついて	事務局:資料説明
会長	<p>市民アンケートは、今説明があったように大きく幾つかの協議の柱が設定できています。1つ目は1学級当たりの生徒の人数で、2つ目は1学年の学級数は何クラスが望ましいか、学年当たりの学級数。3つ目は通学距離に関してで、4つ目は学校の役割であり、5つ目が活力ある学校づくりです。6つ目は、自由意見であります。</p> <p>まず最初に1クラスあたりの児童生徒の人数と1学年あたりのクラス数について、委員の皆様方からご質問やアンケート結果を見ていただいた印象や内容の感想などを聞かせて頂きたいと思えます。</p>
E 委員	<p>小学校と中学校共に1学級当たりの生徒数は、「21人から30人」が一番多いところです。6頁の間7で選んだ理由が、小学校で</p>

<p>B 委員</p>	<p>は、「先生が目が一人ひとりに行き届く」が一番多くなっています。中学校の同じ問では「集団内において様々な役割分担を経験できる」と「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」がほぼ同数で、この2点が多くなっています。指導する先生の立場からは、1学級当たりの望ましい人数はどの様に考えているか聞かせてください。</p> <p>義務教育の9年間は幅が広いので、小・中学校をひとくくりではまとめられません。小学校で一番多かった「一人ひとりに目が届く」と「21人から30人」は、あくまでも数字であって項目と一致しないところがあります。「一人ひとりに目が行き届く」のは、人数が少なければ少ないほどいいので、1対1が、一番目が届くのであります。当然、20人を超えれば目が届かなくなります。問7の項目が8項目ありますが、その内の5項目は、人数が多い方がいいだろうと思われるのが「切磋琢磨できる」や「役割分担できる」、「協調性や社会性を育む」等の内容です。少ない方がいいだろうと思う内容が3項目で、「一人ひとりに目が行き届く」や「絆が強まる」、「丁寧な指導が期待できる」になっています。その割合で単純計算ですが、「人数が多い方がいいだろう」の合計が、5項目で202.4ポイントになり、「人数が少ない方がいいだろう」の合計が、3項目で133.9ポイントです。どちらも混在します。私は中学校なので、小学校は教育実習だけなので良く分かりませんが、小学校は学年の幅が6年間と広いので色々な「多い、少ない」の要素があるように思います。「先生が目が一人ひとりに行き届く」が多いのは、92パーセントが30歳以上なので、保護者やおじいさん、おばあさんのレベルであると思います。市民として自分の子供を学校に預けた時、保護者で子を持つ親や孫のいる家庭としては、「きめ細かく見て欲しい」と言う要望が含まれているように思います。その様な事がアンケートの数字に出ていて、1クラスの人数に直接は結びつかないように思いました。市民アンケートの通り「21人から30人」の希望の中で、低学年と中学年と高学年で学年が下がれば下がるほど丁寧に見て欲しいし、見なければならぬと思います。また、記述アンケートの中に複数担任制の希望もありました。「20人から30人」とすると、低学年では20人まで、3年生では25人、高学年は30人が良いと思っています。小学校の1・2年生は、県の方針もあり35人でアンケートの結果から見ても多いかと思えます。県も市も人数を減らす方向ですが、保護者の希望には添えてないと思っています。小学校の学年ごとにもう少し細かく聞く必要があると思います。アンケート結果のように最高で30人が望ましいと思います。中学校になると「集団とか社会性」のように人との関係性を重視します。先程のアンケートの小学生の「多い方がいい」が、202.4ポイントが、225.6ポ</p>
-------------	---

	<p>イントで増えています。「少ない方が良い」は133.9ポイントが、115.7ポイントに減ります。小学校で低学年から高学年で増えていき、中学校では30人が良いと思っています。現状は40人で多いかと思っています。</p> <p>35人を超える学級で、本校は36人になっておりますが26人から28人で去年は運営しました。1年生の時が27人で、2年生の時は36人になり、教室を見るとなかなか一人ひとりに目を通しにくいと感じています。集団社会性と言うのも30人程度が集団を作っていくのに良いのと、集団を見るという観点からも良いと思います。学校長のアンケートにもありますが、適切な人数であると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>学校では、個人を育てると言います。集団を育てるとも言う両面を持っています。それぞれのメリット、デメリットを考案しながら数字がわかれています。この質問についてこの数字から、保護者の立場からはどのように考えていますでしょうか。</p>
<p>C 委員</p>	<p>小学校におきまして、「先生が目が一人ひとりに行き届く」が多いのは、昨今の保護者はどうしても過保護に育てるケースが多くあります。教職員の方もよくご存じだと思います。小学校に入学したてはまだまだ幼いので、本来なら一人ひとりに目が行き届く10人以下が良いと思います。市内の小学校で1クラス10人以下は無いと思います。皆さん平均的な人数を理想とされています。かつ、小学生の低学年は、まだまだ幼いのでこの数字だと思います。逆に中学校になりますと、13歳から16歳で半分大人の集う集団です。これから社会に出ていく意味でも礎となるためには、先生や親から甘えでなく、自立をなさいと社会性や協調性を一言でいえば、本人向けの言葉であります。そういう事を育む意味では一人ひとりが階段を昇っていく、そういった意味でこのような意見が多かったと保護者としては、そのように思います。</p>
<p>会長</p>	<p>小学校から中学校までのスパンで、発達段階です。特に思春期は大人に対して反発する時期で、そういう事を考えますと小学校と中学校で一概に数字だけで判断が出来ないと思います。保護者からの立場のご意見で、各家庭の親の子育ての甘い事実を踏まえながら、よりきめ細やかさが求められる小学校に対して、中学校はある程度自立していく姿を支援する必要があるという提案だと思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>小学校の学校別のアンケートの中で、すでに小規模化が進む治道小学校と矢田南小学校に関しましては「一人ひとりに先生の</p>

	<p>目が行き届いている」の割合が高いのかなというふうに理解をしていましたが、この2校は、「集団内において様々な役割分担ができる」が、実際一番割合が高くなっています。これは想像でしか無いのですが、すでに先生の目が行き届いているから、「集団内において様々な役割分担ができる」ことが、現状では少ない人数で出来ないで、そのことを望むということがアンケートに出ていると思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>小規模学校の治道小学校を例に挙げておられます。「先生の目が行き届く」の数値については、すでに実現していると読み取った上で違う選択肢の比率が高くなったのか、あるいは、もっともっときめ細かく見て欲しいと望んでいるためにこの数値に現れたのか。ここからは類推しかできないのですが、ご意見をいただきましたがいかがでしょうか。私も、治道小学校に6年間勤務してまして、この学校の実情はよく理解しています。「集団内において様々な役割分担を経験できる」のは、事実ですが、人数が少ないため様々な役割分担をしなければならないのが現状です。一人で何役もしなければならないという、小規模なためが故の実情です。例えば、「役割分担ができるのは一人で何役もしていかなければなりません」と読み取れます。もう少し人数が多い中でいろんな役を選びながら子供の採用性も自分の個性と絡ませて選ぶ事を期待しているのか、数値からはわかりませんが、審議会で適正規模を考える上で議論していく必要があると思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>今の理由の治道小学校と矢田南小学校の適正規模の数値は、どの小学校も希望している「21人から30人」が多いです。人数の少ない経験をされている小学校も、もう少し人数が多い「21人から30人」を望まれていると解釈しています。その中の理由は、あまりにも少なければ役割も限定されるので、もう少し大きな規模で子供たちに経験の幅を広げたいと言う理由になっていると思います。希望している数値とデータで一番多い希望がある人数構成とその理由が覗えると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それもあると思います。少人数の中で一人何役もなる。もう一点は、家庭的な環境での力関係です。この場面になると半強制的に「あんたしなさい」となり、「グループリーダーはあの子がする」と固定化する事になります。クラス替えが無ければ、小学校では6年間続くことになり、フォロワーになる子は6年間フォロワーになってしまいます。つまり、リーダーになる子は6年間リーダーを続けることになります。そう言う意味での解釈も成り立ちます。小規模校でこの数値</p>

副会長	<p>が高いのは、2つ目の要素としては、大事なことだと思います。数値的には、「21人から30人」で、小学校に限って言いますと学級数が「2から3」が多く一般的な認識と思いますが、我々はそれだけで結論を出すことはできません。そこに意味付けを図る必要があります。どのように反映していくか、もう少し議論して頂ければと思います。他の視点でいかがでしょうか。</p> <p>クラス替えに関しては、クラス替えが出来た方が良いという意見があります。人間関係が上手くいなくなる場合は、「人間関係を保つことが困難になる」が理由に挙がっています。クラス替えのデメリットもありますが、個人的にはメリットが大きいとっていてクラス替えが良いと思います。クラス替えのメリット、デメリットをどのようにお考えかを伺いたく思います。</p>
B 委員	<p>郡山中学校で8クラスから9クラスある中でのクラス替えをしました。実際に担任や学年に所属してクラス替えするのと、視点が違います。小学校におけるクラス替えの効果やメリット・デメリットは、実際に見ていないので何とも言えません。中学校で4月の始業式でクラス替えがあった時に必ず起こることは、女性がハンカチを持って泣いている姿です。好きな子と別れて悲しいとか、クラスに入りたくないなどの理由です。担任の教師にとっては人事権があり、学級を作っていく上でクラス運営や学年運営の大きな柱になって、大きなウエイトを持っています。いじめなどのマイナス面に変化を持たせる事や、集団でリーダーになれない子どもをクラス替えによってリーダーに持っていく事が出来ます。もう一つ支援の必要な生徒もいます。もちろん教師が支援しますが、子供たちの支援も人間関係の中で考えます。どこの中学校でもそうだと思いますが、3学期はクラス替えの前に個人面談をしています。子供たちと担任が話し合いながらクラス替えの案を考え、神経を使いながらクラス替えを行っています。</p> <p>「社会性」という意味で、中学校でのクラス替えのメリットは大きいです。我々も最大限に活用しながら、学年や学級を考えますとクラス替えは必要かと思います。</p>
会長	<p>小学校は、学級担任制で登校してから下校するまで担任中心の生活をします。中学校は教科担任制なので、小学校ほどではございませんが、子供らはその集団で学習し生活を送っています。最終的に人権問題にかかわる場合もありますが、「いじめ」など深刻な場合は逃げ場が無い場合があります。これは、どこにも当てはまる事ではありませんが、深刻なケースの時はクラス替えで救われ</p>

	<p>る事があります。一般的に1クラスの人数が少なければ、その関係が固定化します。多いときは距離を置くことができますが、順位が決まると完全に固定化されます。小学校の方はクラス替えのメリット・デメリットでいうと、苦しい状況の子どもはクラス替えで救われる方法かと小学校の感覚からも思います。中学校はまた少し違うと思います。クラス替えは、1学年の学級数が1クラスではできません。大和郡山市の実態として、小学校の学級数と人数は37頁にあります。中学校は38頁の表を見てください。クラス替えのできない6年間同じクラスで過ごすのか、先程から名前が出ています治道小学校は14人の人間関係の中で6年間すごします。この中で人間関係が破綻すると逃げ場が無い状態になります。すべての子供が破綻する事はありませんが、望ましいと考えている市民の皆さんの数値は報告の通りで、それぞれメリットもあればデメリットもあり一長一短です。それぞれに回答いただいた考えや思いがあります。本審議会としても、それぞれの数値の意味付けを図り今後活かして行く必要があります。今後10年から15年20年とたてば、この数値は人口減少で、児童・生徒数の減少になっていきます。これをすぐに改善する事は困難と思います。</p>
E 委員	<p>市も色々と人口減少を食い止める施策をしていますが、なかなか急に増加する事はありません。当分の間は、減少すると思っています。子供の学級数は、そのうちすべてが1学年1学級になって行くと思われます。何らかの対策を考えていかなければと思います。</p>
F 委員	<p>市民のアンケートを見ますと「21人から30人」で、クラス数は「2から3クラス」が大半で、親の希望が表れているのかと思います。ただ、28頁で「小中一貫校など新しい形態の学校の検討が必要」と言う意見が有る事に大変驚いています。公立で小中一貫校を運営している県内の市はあるのですか。現状を把握していれば教えていただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>奈良市で小中一貫校の公立があります。生駒市にもあります。</p>
F 委員	<p>市としては、見ているだけでこの様な事も研究し、検討している段階ではないのですか。</p>
A 委員	<p>今の小中一貫校の事ですが、この話と適正化とは別の問題だと思っています。小中一貫校と言うのは、教育モデルの形として、英語学習も小学校に降りてきて、少ない先生の数で特別カリキュラムをこ</p>

	<p>なすためには、小中一貫校の方が教育環境としてまかなえることがあるケースが全国で何件かあると聞いています。この審議会で審議するのは、子供の教育のカリキュラムではなくて学校としての人数や学級数の環境の規模が子供にとって適正であるかを、人間関係のしんどさを少しでも軽減できる人数はどのくらいか。また、クラスは何クラスが良いか。小中一貫校に関しては、どういった教育を進めていくのかという、教育委員会から打ち出したものについてどう考えるかという事です。学校規模とイコールにするには少し乱暴かと思っています。何かご意見をお聞かせください。</p>
事務局	<p>小中一貫校に関しては、教育委員会としても方針はまだ出しておりません。</p>
A 委員	<p>小中一貫校の特性を踏まえた上での考え方が必要だと思います。私も公立の小中一貫校や、いわゆる義務教育学校へも行かせていただきました。それぞれの学習目標の形態が有っての義務教育学校であり、小中一貫校であり、地域特性も含めてです。そういう意味では、治道小学校の小規模特認校の特質であるとか義務教育学校や小中一貫校を見据えた上での適正を考えるのであれば、そこの特性を議論してからでないと単純に数とリンクしません。逆に、相反する事だと思います。保護者アンケートから読み取っても、人数やクラス数で考えると「20人から30人」で、「3から4クラス」が望ましいと言う事ですが、そうなりますと、治道小学校などは、まったくそこには当てはまらない事になります。逆に、特性を考えれば一般的な数とは相反するものであります。一般的な望ましい数でないからこそその特性を生かせるという意味では小中一貫校のそこを抜きにしては、適正規模委員会では検討できないと思います。それを土俵に上げるのであれば、そこを提示してもらわないと、相反するものをどのようにすれば良いかなと思います。</p>
会長	<p>私の認識としては、適正規模・適正配置と小中一貫校の話は、同時進行していくものではありません。小中一貫校の問題は、3年から5年かけてカリキュラムから教育体制や教員体制の受け皿を研究して、そこから始まるものと考えています。これが前提で適正をどのようにしましょうと同時進行するような考えではありません。ただ、いろいろな形で少しずつ生まれている中で、そのことに関心をお持ちかと思っています。すべてを理解した上で、アンケートに答えて頂いたのでは無いと思っています。言葉で真新しいから選ばれた回答も中にはあるかも知れません。そういう意味で言うと、この審議会で「適正規模・適正配置」について議論した上で本年度末に答申</p>

	<p>を出します。その時に小中一貫校や義務教育学校の選択肢としては取れるかわかりませんが、それがありきで進めていく事は考えておりません。ただ、この様なことを書けば学校の適正配置・適正規模を、小学校と中学校を一緒にすれば良いと、安直な考えで判断すれば大きな誤解が生まれ非常に難しいです。治道小学校の小規模化と比べ物にならない教師にとっては非常に難しい課題です。なかなかできるものではありません。何年か研究に研究を重ねた上で「GO」サインを出さないといけないと思います。私が知っている範囲では、小中学校の一貫は、山間僻地で子供が減少して一定の規模が必要なので小学校と中学校が協力しているケースと、教育課程を子供の成長を見ていくための指導体制の発想で小中一貫とする大きく2通りがあると思います。今の和歌山県のこのアンケートの中での関心は、注目はしますが、現状はどちらにも当てはまらないと思います。ただ、これだけ関心のある方がいらっしゃることは、F委員の発言の通り関心を持つ必要があると思います。ただ、審議会としてはこの内容について一つの方向性を持って議論するのではなく、幅広くその中の一つの検討課題と受け止めて頂きたいと思います。</p> <p>次に、通学区域と通学距離についてのご意見がありません。これは、交通量や道路整備、それと安全面等の問題もあります。D委員にお聞きしたいと思います。通学の距離や時間についてや、子供の通学に関して、普段どのような事が話題になっていたりしているか、もし有りましたらお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。小学生は「1kmまで」で45%あり、ほぼ半数近くです。「1.5kmまで」は33%です。中学校は、自転車通学があります。通学に関しては、川崎の悲惨な事件もありましたので、学校も保護者の皆様も関心が高いし、気になるところです。地域の方々もその時間帯に犬の散歩をしたり、外へ出て見守ったり、学校と連携して頂いていると聞いています。学校によっては多少違いがあると思います。この様な通学に関してご意見をお聞かせください。</p>
D 委員	<p>ここに書いてありますように、小学生は、「1kmで徒歩20分以内」が一番多いわけです。和歌山県市内の現状では大半がこの枠に入っていると思います。この前も治道に行かせていただきましたが、そこは特別な地域であり、他の和歌山県市内の学校もほぼこの枠内でおさまっているかと思っています。</p>
会長	<p>自治会に対してはアンケートを取っていませんが、子供の登下校に関心はお持ちかと思っています。子供の登下校の安全に関して話題になりますか。</p>

D 委員	<p>地域で見回り隊に登下校の時間に活動をしていただき、現在のところほぼ満足をしています。さらに検討を加えないといけないと思っています。</p>
会長	<p>学校の教員が総出で外へ出る事は出来ない。地域の方に協力をお願いする形になります。</p> <p>通学距離と時間に関しましては、この程度の認識で審議会として考えます。</p>
A 委員	<p>通学時間と距離もアンケートをいただいた方の希望ととらえればいいと思いますが、人数とクラス数の規模と通学時間とは、一致しないと思います。現時点では一致していますが、先程おっしゃった様に10年から20年のスパンで見ると子供の数が減少します。爆発的に人口が増えたらまた考え方は別ですが、1クラスが「21人から30人」で学年のクラス数を「3から4クラス」にしようと思えば、先程会長がお話しされた36頁と37頁の表を見ても、明らかに現在でも満たしていない学校があるのであれば、望ましい人数とクラス数にするにはどの様にしていくか考えないとだめだと思います。単純に考えると再編成すると通学距離も時間も伸びます。この通学距離と望ましい適正な数は保護者や市民アンケートからどのようにとらえたら良いかわからなくなります。どちらも現状のアンケートから出てきた数を土台にして考えたならば、一緒にはできないです。同じ様にこの数字が良ければ、反比例する内容をどのように考えていけばよいのか</p>
会長	<p>適正規模は、「21人から30人」と出ていますが、適正配置については、昨年度に大和郡山の地図に校区割りで色分けし、小学校と中学校を配置に置いて、一部は通学時間がしんどい地域が有る事も承知しております。おおむねこの範囲内に大多数の子供たちが通っているとするならば、今後ますます減少すれば一人で登校しなければならぬ子供が増えます。もしも10年から15年の後に再編成すれば当然そのエリアが広がります。妥当だと思っている距離が延びることは想定出来ます。その時点でその対策は必要だと思います。この審議会ですこまで踏み込んでいけるかです。そうならば例えばスクールバスを出せばいいのではと思いますが、この審議会は適正規模を考えていく中で、配置を考えた場合通学距離の問題が発生する事を指摘しておく必要があると思います。その解決方法をどの様にするのが望ましいと言うところまでは、私はこの審議会ですべて求めているとは思いません。今、ご指摘のあった部分の矛盾する事は当然含まれている要素です。適正規模・適正配</p>

	<p>置の適正配置に関して、この通学距離(エリア)が話題になってこのアンケートの項目に入っていると受け止めてください。その判定については、この審議会では無理かと思います。しかし、命に関わる大事な事が含まれますので審議会としては議論をしたいと思っています。それでは、時間もありますので後ほど関連質問をお出しください。次に進めます。学校長と市民アンケートについては、事務局より比較をしています。その比較についてご説明をお願いします。</p>
<p>学校長・市民アンケート結果のまとめ</p>	<p>事務局:資料説明</p>
<p>会長</p>	<p>回答数は市民が1049で学校長が16であり、絶対数的に比較にならないと思います。質的に見ますと、おおむね似た傾向で、若干の違いを見られる点があると思います。市民アンケートと学校長の比較を見られて何かご質問やご意見が有ればお願いします。いかがでしょうか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>中学校の学級数で「3から4学級」が有れば、ほぼ全員が選ばれたと思います。授業数で主要教科が週に3時間が多くて、3から4クラスであれば一人の教師が1学年を全部見る事が出来ます。成績を評価する上でも平等に付ける事が出来ます。5クラス以上になると複数人の教師で見る事になります。10以上の数学は2名で見る事になります。表では4から6クラスになっていますが、3から4クラスが授業の運営の意味でも適正だと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>学校運営を教師側から見た望ましい学級数は、教科担任の関係の問題で、その視点は市民アンケートでは、その学校の実情がわかっていないため、市民の方が理想の形から選ばれた結果だと思います。先生側の問題も大きな要素を持っています。先生の数が一人でもいれば、専門の免許を持った先生がいればと、前回の会議でも出ましたが、学校が抱えている課題をアンケートに反映した結果と、市民の方が理想と思われ望ましいと思い選ばれた数字の中の意識差も当然審議会でも読み取っていかないと、単純に比較しては危険だと思います。そのほかにご質問やご意見はございませんか。</p>
<p>副会長</p>	<p>今の続きですが、臨時免許や免許外申請は好ましくないという話が前回の会議で出ていましたが、その意味でも学校側とすれ</p>

<p>会長</p>	<p>ば、クラスの数は3から4クラスが良いと思いますか。</p> <p>B委員は、規模の一番大きい学校ですか。規模の大きい学校は、臨時免許の先生が少ないですか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>6クラスと7クラスではまた、微妙に違ったりします。一概には言えないが、人数の少ないところの方が教科の時数と定員数は決まっているので、その人数をどの教科で配置するかで、なかなか回らない教科が出てきます。</p>
<p>会長</p>	<p>教員配置は、難しい問題です。特に人数がありますから大変です。免許に関しては、生徒や保護者から見れば皆先生です。その方が専門の免許を持っているか、その期間だけの臨時免許なのかの違いは分からないと思います。大きい学校は大きい中で問題があり、小さい学校は小さいなりに悩みや問題を抱えているようですが、保護者の立場で校長のアンケートと市民アンケートの数値の違いをどのように思われていますか。</p>
<p>C 委員</p>	<p>保護者側としまして、年代的なところがあると思います。昔の自らの体験を基に思われている方もいると思います。あるいは、今子育てで真最中の方、もしくはこれから子育てを迎える方もいると思います。確かに望ましいと言うかあくまで理想なのか、これは大和郡山市内の市民のアンケートなので、実際に治道小学校のように少ない現状もあります。もちろん大和郡山市全体に子どもの数が減少している実情を踏まえてアンケートに回答していると思います。私もそうですが、子供を学校に預けていて、1日の3分の1を学校で教えてもらっているので、感謝の気持ちがあります。その学校側からこの学級数・この人数が教師としていいので有れば、従いたいという思いが強くなります。これがベストだと、これがベターなのだと、実際にプロの現場から上がってきた声なので、“絶対にそんな事は無い”とは思いません。それが私の見解です。</p>
<p>会長</p>	<p>役所に聞きますが、学校の地域の役割の中で「避難場所や防災器具・食料備蓄などの防災の場」が一番多い回答ですが、100%が学校に設置ですか。それ以外でもありますか。</p>
<p>E 委員</p>	<p>学校だけでは無く、一部は倉庫を借りている所があります。あまり遠いといざという時に使用できない事や、直ぐに取りに行く事も出来ないので、小学校区で想定して設定しています。</p>

会長	<p>学校の地域における役割であり、その選択肢であるので、「スポーツ活動」や「地域のコミュニケーション」、「地域の伝統文化を継承」の事よりも、まず安全安心の数値が高い事は理解できます。</p>
A 委員	<p>このアンケートを見ますと市民アンケートでは、通学時間が学校長のアンケートより短くなっています。保護者の立場から理解できる結果です。にもかかわらず、最後の頁の「学校づくりの検討方針」の中では、「区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する」が一番多くなっています。と言う事は、通学時間よりも子供の数を確保する事を重視する市民の方が多いかと受け止めています。この審議会の判断基準としても重要な結果を表しているように思います。ご判断は、いかがでしょうか。</p>
会長	<p>通学距離の問題と、通学区域を見直してまで適正な生徒数を優先する、この数値の結果を見て、その部分について審議会として見解を示すことは非常に大事なことだと思います。ただ、方法論として通学区域を見直すか、見直さないかは、先程の90%以上が適正と思われる距離や時間に入ってもどこの学校もその時間以上を掛けて通学する子どもがいます。その子たちの事も勘案しながら通学区域を見直すと、さらにその様な子どもたちが増加する事も考えられます。通学区域を見直す事よりも適正な規模を確保する事が是か非かの議論にもなってきます。この部分については、審議会としてはこの両者をくっつけて議論することは大事なことだと思います。一つの考えを示すことができるのか。通学区域を見直して適正を優先する為に距離は犠牲にしても良いと言う見解をそこまで踏み込んで持つのか、また、その逆を持つのか。それをするなら、距離の事も安全の事も考慮してください。大きく考えて3つあります。会長として私一人の考えで、この方針で行きましようと言う事もできません。皆様方が今おっしゃった視点で、審議会としては適正な学校規模を進める中で、十分に距離の問題は配慮して頂く必要があると思います。その考えで委員さんが賛同いただければ、その方向で文章がまとまります。この数値をもってやはり通学距離や安全を第一に考えるべきと言うのであれば、この適正な規模を確保することはその次に考えることとなりますという審議会の見解の書き方になります。今のご意見は、詰めていく必要があると思います。どちらかを選択して、もう一方を捨てる事も出来ないと思います。その事と関連しますが、本日そこまで触れることができないと思っていましたが、冊子の問18・19を見てください。28頁です。ここに非常に大事な提言や提案がいくつかあります。事務局から聞くとところでは、回答者の約5分の1程度の方が文章で記述頂</p>

	<p>いているそうです。いただいた回答をこのように分類いただきました。この貴重なご意見を議論せずに、数値のデータだけで「21人から30人」が適正ですと言う事はできません。会長提案ですが、次回は、この問18・19のご意見を一読いただき、この内容について議論を進めて行きたいと思えます。次の会議では、問18・19を中心に適正規模・適正配置について、もう一回議論を行いたいと考えていますが、いかがでしょうか。</p>
全委員	<p>はい、結構です。</p>
会長	<p>今のままでは、私も方針の原案を作成する事が時期尚早かと思っています。もう一回議論して頂きたいと思えますので、よろしくお願いいたします。合わせて事務局にお願いがあります。来年から小学校の学習指導要領が全面実施して教科書も新しくなり、今後基本的に10年間この考え方で教育が展開されます。10年後に適正化がどんな事態になるかもしれませんが、目指す方向の教育を頭に入れながら適正規模・適正配置を考えて、より教育の機能が発揮できる小学校中学校になればと考えています。事務局で教育課程の指導要領がどのような方向を目指しているのか説明いただける資料の準備をお願いできますでしょうか。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
会長	<p>これまでの数値的なデータからのご意見やご質問はありませんか。</p>
B 委員	<p>クラス替えのところで、「人間関係に変化がもてる」の意見が多くありました。クラス替えが人間関係の修復に良いとの話で落ち着きました。学校を代表して述べますと、担任の先生はその集団の中で正常な人間関係の修復をしようとしています。クラス替えによって解決するよりも、可能な限りクラス替えよりも今の集団の中で間違った人間関係やいじめの問題解決をするために日々努力しています。特に公立の小・中学校では、クラスを出たらおわりでなく、その後に地元で会うし、また近くのスーパーでも会うことがあり、何かの集会で一緒に参加をするなど、長い付き合いになる可能性が非常に高くなります。だから、治道小学校も人数が少ないですが、少なければ少ないほど地域のつながりが濃いわけであります。学校の教育の工夫や教師の意識によって小さい集団の中でクラス替えは無いが人間関係を作っていく事が地域に合った教育で必要です。学校の運営からして、決してクラス替えに頼っているわけでは無いこ</p>

<p>会長</p>	<p>とと、公立学校は、特に集団の中での人間関係を修復する事が必要であると考えています。</p> <p>一元的に理由を一つにするつもりはございません。それぞれの良さとしてまとめていきたいと思えます。</p> <p>委員の皆様には、次回の審議会に市民アンケートの間18と19の資料をお持ちいただきたいのと、僭越ですが目を通していただきますようお願いいたします。下手な進行で申し訳ございませんでした。最後に(3)その他について事務局の方からよろしく願いいたします。</p>
<p>次回の日程について</p>	<p>事務局:説明</p>
<p>会長</p>	<p>閉会</p>